

# 靈的に混乱した世界における 「秘密のしるし」、「星占い」、 そして、「イエス・キリスト」

## コロサイ書1:15~20

- 1:15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。
- 1:16 なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も權威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。
- 1:17 御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。
- 1:18 また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。
- 1:19 なぜなら、神はみこころによって、満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ、
- 1:20 その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、御子のために和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。

## はじめに

今日、世界の中で、靈的なことについての混乱がたくさん見られています。日本で、毎日、新しい宗教やカルトがかたちづくられていると言うことは、みなさんもよくご存知のはずです。これら新しい宗教を始めた人たちのほとんどは、隠されていたような特別な知識や、特殊な体験を主張しています。彼らは、さらに深い靈的な経験が得られると語っています。これらのグループに入会している人たちは、彼らが直面するいろいろな問題を乗り切ることができる力と影響が与えられる、と信じています。私たちは、そのような隠された知識の魅力にとらわれてしまいそうになります。また、あらゆる種類の目的や現象の中に隠されたり、秘められたりしているものがあると語る教えに興味をそそられてしまいそうになります。星占い、占星術、占いというたぐいのものが、日本では非常に人気をくしています。そのようなものは、隠された知識や力を明らかにすると信じられているものばかりです。しかし、このようなもの



の力の源は決して無害なものではなく、むしろ、破壊的で、危険なものです。ダビンチ・コードの映画や本は、聖書には隠された情報が含まれている語り、私たちをひきつけました。そして、多くの人々が、それらの中にある、マジックや謎めいたものの教えや考えにのめり込んでいったようです。それは、不幸としか言えません。なぜなら、そのような人たちこそ、聖書が語っている真実かつ、基本的な福音の教えから離れていくように誘惑にあっている被害者たちであるからなのです。

紀元1世紀のコロサイ教会も、そのような状況の中に立たされていました。あらゆる種類の哲学や教えが、そこでは、混じり

合っていました。東方の神秘主義の上に、ユダヤの律法主義、そして、神についての深い秘密の教えなどが混じり合ってきた、「いつわりの教え」がコロサイ教会を攻撃していました。そればかりか、コロサイ教会は、キリストの神性と人間性に関して、ゆがめられた教えをまともに受けてもいました。その教会に深く関わり、影響力を持っている教師たちは、自

分勝手にいろいろな教えを混ぜ合わせ、「より高度な教え」と言って、その教会で語りました。その結果、イエス・キリストの人性とはたらきとをまったく否定することとなってしまいました。彼らは、イエスさまとは、より深い霊的体験の中に存在する、ひとつの小さな「しるし」でしかない、と語りました。彼らによれば、イエスさまは、宇宙の中における「不思議なしるし」を見極めたり、様々な儀式的なしつけによって生きていったりするための霊的存在でしかありません。しかし、ある意味で、そのような彼らの見解は、今日、私たちの近くで見ることのできるカルト的や占星術的な教えに非常によく似てもいるのです。

使徒パウロは福音の真実を守るために、彼らに宛てた手紙を書きました。キリストのすべての分野における権威と優越性を書きました。それらを認めてこそ、福音が成り立ちます。きょうの聖書箇所は、キリストの権威と優越性という重要なことを3つの方法で示しています。これらの基本的な真実こそ、霊的に混乱してい

る今日の状態から、私たちを守る「砦」となることを覚えておきたいのです。



## キリストは創造主 (コロサイ書1:15~17)

イエスさまは、まず、見えない神さまの「かたち」として、御自身を世にお示しになりました。これは、目に見えたキリストこそが、神さまの身体的な特徴である、と語っているのではありません。聖書は私たちに、神さまとは霊なる存在であって、まだ、誰も神さまを見たことはない、と語っています(ヨハネ4:24、ヨハネ1:18)。見えない神さまの「かたち」として、キリストは正確に神さまの個性をあらわしてくださいました。言い換えれば、イエスさまこそ、「神とは、このようなお方」ということを正確に示してくださいましたお方です。ですから、また、「イエスさまこそ、神さま御自身である」と言うことができるのです。

同じく、イエスさまは、御自身こそ、すべての被造物の長子である、ということも明らかにされました。これは、イエスさまが被造物の中で、最初に造り上げられたひとつであると語っていることではありません。「長子」というこ

とばには、長子にしか与えられていない特別な権威と資格までも含まれています。それは、権威と優越性を持っている、日本語の「長男」と同じようなものです。イエスさまが長子であると言うことの中には、このお方こそ、最も高い地位と権威を持っておられるということが込められています。すなわち、キリストこそ、すべての優越性と権威をお持ちのお方であるということなのです。

イエスさまは、また、すべての被造物の創造主であるとも語られています。このお方は、宇宙のすべてのものを取り仕切っておられます。すべてのものは、このお方によって、そして、このお方のために造られました。イエスさまはすべてのものの上に立っておられる最高のお方です。そして、すべてのものは、イエスさまによってまとめられることとなります。

中世の時代に描かれた絵の中に、雲の中におられるキリストというものがあります。キリストの下には、人間の世界と自然が描写されています。その画家は、その絵の中で、この世のすべてのものは細い金の糸でキリストとつながっていると表現しました。このような真実を、この絵は実に美しく表現しています。御自身が生かしているすべてのものを、キリストは御自身のお力で、支えてまでおられる、という大切なことを伝えようとしているのです。

キリストは単に私たちを創造して

くださったということだけではとどまりません。このお方は私たちを御自身のために造り、支えてまでもくださっています。キリストがすべてのものを治めておられる創造主であるからこそ、このお方は、私たち被造物の人間にとって最もふさわしい生き方を  
ご存知でもあるのです。



## キリストは頭(かしら) (コロサイ書1:18)

また、イエスさまは教会における最高の権威をお持ちです。なぜなら、このお方こそ、教会の頭(かしら)なるお方であるからです。聖書の中の多くの箇所、教会は「キリストのからだ」であると述べられています。私たちが自分のからだ、その中にある一つひとつの器官がどのように機能しているのかということについて考えてみると、教会とはいかに調和と統一を持って機能していくべきものであるのか、ということがわかってくると思います。からだが正しく機能するのは、正しい頭(かしら)が、からだの中にあるすべての器官に正しい命令を送っているからです。教会が、頭(かしら)であるキリストから離れてしまっ

たはいいけません。私たちが家族がしばらくの間、軽井沢で住んでいたとき、私たちは非常に忘れ難い感謝祭の食事をいただくことができました。その年、私たちはプラスチックできちんと包装され、冷凍された七面鳥を食料雑貨店で買っ

たわけではありません。その年、私たちは感謝祭のための

七面鳥を、自分たちの手で殺さなければならなかったのです。その感謝祭の食事が開かれる友人の家には、生きている七面鳥が12羽ほど届けられていました。その一羽ずつ、私たちはつかまえて、頭を切り取らなければなりません。正直に申し上げますが、私は殺された七面鳥の羽を取り去る作業しかできませんでした。かわいそうな七面鳥の頭を切り落としてしまうほどの凶太い神経を、私は持っていません。頭が切り落とされた七面鳥の動きは実に奇妙なものです。頭が切り落とされるや、すぐに、倒れて、死んでしまうというわけではありません。最終的に死を迎えるまでの1、2分間、彼らは目的もなく、ただ、跳びはね、走り回るので



頭(かしら)であるキリストとつながっていない教会とは、そのような存在でしかありません。そうなれば、彼らは正しい制御を失い、キリストから指示もされていないあらゆる種類のことがらに手を出すものの、ただ、走り回ることしかできません。頭を切り落とされた七面鳥がただ走り回っているように、そのような教会の内部では分裂が起こり、

争い、陰口、恨み、つらみが駆け回ります。申すまでもなく、教会は完全ではありませんから、誤解や困難と常に闘って行かねばなりません。しかし、教会に属するそれぞれが直接、頭(かしら)であるキリストとつながっているなら、私たちは、どのようにすれば、平和と一致をいただくことができるのか、と学び続けさせていただけます。ただ、キリストへのへりくだりと、キリスト御自身が願っておられることに目を向けるとき、私たちは平和のうちに、互いに、愛し合うことができますようになります。教会だけでなく、私たちの家庭や近所においても、キリストが望んでおられるように、私たちが力や知恵や慰めや赦しを得ながら生きていくためには、私たち自身がキリスト御自身と正しくつながっていないければなりません。私たちが正しく、頭(かしら)であるキリストと

つながっていることが、私たちが過ちやニセの教えから守ってくれることとなるのです。

教会は生きておられるキリストにお仕えしています。このキリストが死人のうちからよみがえられたと言うことの中には、死どころか、このお方を押さえてしまう力は何ひとつない、という真理が

起こります。そのようなとき、バランスの良い優先順位を保つことができるでしょうか？ところが、「生活のすべてにおいて、キリストが主となってくださっている」ということを受け入れると、私たちは、むしろ、次のように考えるようになるのではないのでしょうか？

神さまは、何よりも、私の結婚生

## キリストは救い主 (コロサイ書1:20)

世の中には、さまざまな宗教や教えから最も良いと思われるものだけを取り出し、それらを集めて、自分自身の宗教にしてしまおう、としている人たちがいます。そのような考えを持っている人たちは、イエスさまを数少な



込められています。キリストはすべてのものの上に立つ、最高のお方であり、私たちの人生のすべてにおいて統べ治めておられる、絶大なる権威をお持ちのお方であるのです。

さて、あなたは自分の人生において、どのような優先順位を持っていらっしゃるのでしょうか？「神さまこそ、何ものにも勝る第一番目の優先順位です。結婚生活が私の第二番目、子どもが私の第三番目、そして、仕事が第四番目です。」とお応えになるお方がいます。しかしながら、そのような優先順をバランス良く保つことは非常に難しいのではないのでしょうか。ときには、子どもたちや仕事に注意を向けて、集中しなければならぬことが

活の中ではたらいておられます。

神さまは、何よりも、私と私の子どもたちとの間ではたらいておられます。

神さまは、何よりも、私の仕事の中ではたらいておられます。

キリストはすべての場所にいるし、すべてのことにはたらいておられます！

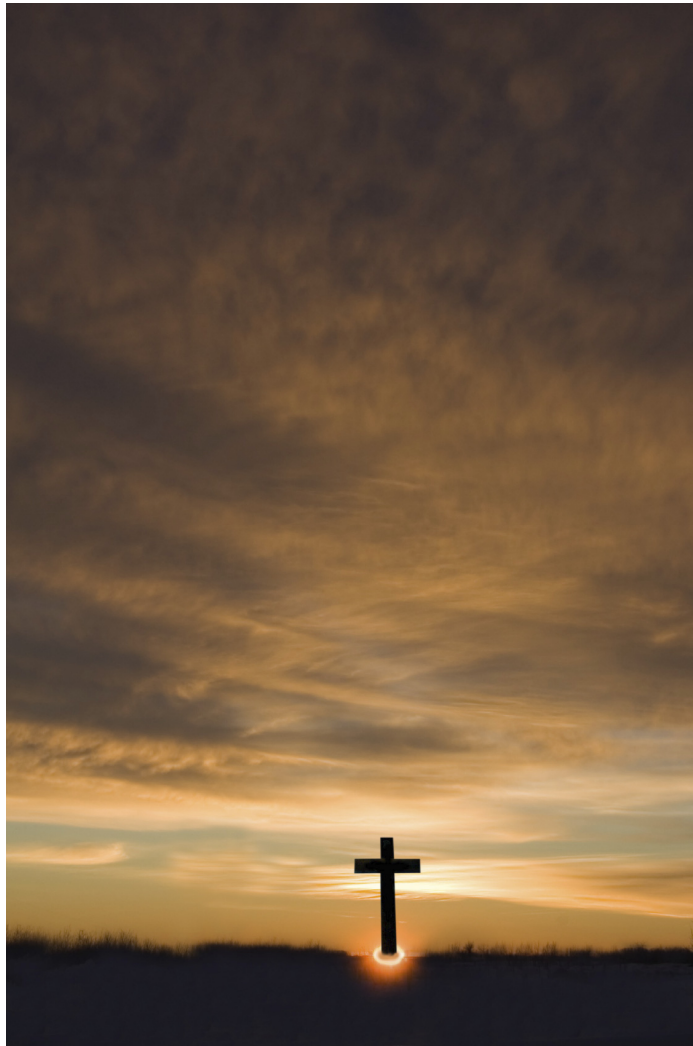
キリストが何よりも、私たちの人生の「長子」となられたということには、私たちの考えや思いよりも、まず、このお方のみこころを求めることの大切さを語っています。キリストが私たちの救い主であるからこそ、そのような生き方が可能となるのです。

い偉大な宗教家のひとりであると見ています。ところが、そんな彼らは、最高の権威をイエスさまがお持ちであるということに認めようとはしません。違いを認め、寛容な生き方を勧める世の中では、キリスト教はいろいろと異なる教えのうちのひとつとしか見られません。そのような考えている人たちは、結局、最終的に、よりすばらしい教えを語る宗教こそが生き残っていく、と語ります。しかし、そのような考えの中には、キリストの権威や贖いのみわざを弱めるどころか、そのようなことを取り扱いもしません。しかし、本当のキリスト教は、むしろ、他の宗教や教えと一致せず、歩調を合わそうとはしないものであるのです。

福音は異なる教えを、まったく受け入れません。なぜなら、私たち人間の救いに必要なみわざを成し遂げてくださったのは、ただキリストだけしかいない、と福音が語っているからです。コロサイ書1:19が、「満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ」と書かれているように、神であり、同時に、人間であるのはイエスさまだけです。イエス・キリストは、からだを持っている正真正銘の人間でした。このお方は受肉なされた神さまです。神さまと私たち人間との間に平和が築き直されたのは、このお方の死を通してです。イエスさまが自らの意志を持って、十字架の上で死んでくださったことによって、私たち人間が受けなければならない罪の罰が身代わりとなって支払われ、聖なる神さまの公正な要求が満たされました。その十字架によって、神さまと私たち人間との和解は成し遂げられました。その和解による平和は、十字架の上で流してくださったイエスさまの血潮によっていただけたものです(コロサイ書1:20)。イエスさまが成し遂げられたその和解のみわざは完全です。その十字架の上でのみわざに加えるものも、また、そこから取り去るべきものも何ひとつありません。これこそ、何ひとつ変わる事のない真実であるのです。

マイケル・ジョーダンには史上に残る最も偉大なバスケットボー

ル選手のひとりとしてよく知られています。彼がバスケットボールで見せる動きやシュートは、まったく人々を驚かせてしまいます。「そんなすばらしいわざ



は、いったい、どこから生まれてくるのか？」と、ある人が彼に尋ねました。彼から返ってきた答えは、実に、単純なものでした。「私は、常に、基本に忠実なだけです。」と言うのが、彼からの答えであったのです。基本は決して変わりません。唯一、変化するのは、それらに向ける私たちの注意の仕方だけです。「あなたが基本から遠ざかったとき、それが奈落の底に落ちていく瞬間だ」。マイケル・ジョーダンは、そのように語ったのです。

きょうの聖書箇所は、私たちに向かっての大切な基本を語って

います。イエスさまは信仰や人生のすべての面において、最高なお方です！イエスさまは創造において最高のみわざを成し遂げられたのと同じように、私たちの人生のすべての面で最高のみわざを成し遂げられたお方でもあります。イエスさまは、教会においても最高の権威を持っておられるお方です。救いのみわざにおいて、最高のはたらきを成し遂げられました。その同列に並ぶものは何ひとつ存在せず、イエスさまが成し遂げられたみわざに付け加えなければならないものは何ひとつありません。「バイブル・コード」と呼ばれるような隠された知識や、占いや占星術のようなものに手を出したところで、霊的に深い体験などに決して導かれはしません。これらのものは、ただ、私たちの目を基本的な真実や、キリスト御自身から離すようにと導くだけです。聖書は、はっきりと、キリストはすべてのものよりも先におられたお方であり、すべてのものの上に立っておられる

最高の権威をお持ちのお方であると語っています。イエスさまは神秘主義の中にある、「ひとつの小さな部分」と見られるようなお方ではありません。一層深い霊的な生活を人間にさせるための儀式をなしたお方なのでもありません。イエス・キリストは創造のみわざを成し遂げ、それによってかたちづくられた被造物たちのすべてを支え、そして、神さまから離れていった被造物を取り戻すため、贖いのみわざを完全に成し遂げてくださったお方です。私たちの信仰と信頼のすべては、このイエス・キリストというお方の上に建て上げられているのです。

祈り

お祈りしましょう。

愛する、主イエスさま、あなたは永遠にほめたたえられるべきお方です！

あなたの権威と支配はすべてのものの上にあります。

あなたは、この世界を支えておられます。

ところが、そのような偉大なお方であるのにも拘わらず、あなたはこんな私たちの小さいのちの、最も小さく、些細なことがらにさえ気をかけてくださっています。

あなたのご愛を、ありがとうございます。

十字架の上で捧げてくださった、あなたの犠牲により、あなたは贖いのみわざを成し遂げ、あなたの民を取り戻してくださいました。

感謝いたします。

ところが、私たちの心は、見たり、聞いたりする異なる教えによって振り回されてしまいやすくなります。

どうか、私たちの心を、そんないつわりによって、もてあそばされたりしないようにお守りください。

あなたの真実によって、私たちの心を保ってください。

あなたのみことばによって解きあかされている、あなた御自身をさらに深く知り、経験しながら、成長させてくださいますように。

あなた御自身に示されている満足と十分を見いだすことのできる私たちとしてください。

あなたに、さらなる信頼を向け、深みを持って成長する信仰へと私たちをお導きください。

これらのすべての祈りを、イエスさまのお名前によって、お祈りいたします。

アーメン。